

第32軍司令部壕ワークショップ（第1回） 説明会・情報交換会
議事概要

1 日時：令和8年7月12日（日）説明会 13:00～14:00・情報交換会 14:10～15:00

2 場所：首里城公園首里杜館1階レビューホール

3 議事内容（説明会）

（1）開会挨拶

事務局より、説明会の開会挨拶を行った。

（2）プロジェクト説明

事務局より、プロジェクトに関する説明を行った。

（3）壕の現状説明

事務局より、壕の現状に関する説明を行った。

（4）壕に関わる歴史と意義の解説

展示施設基本計画検討委員会委員 吉川氏より、壕に関わる歴史と意義について解説を行った。

（5）質疑応答

【説明板について】

○出席者1

掩蔽壕の前に設置されている、第32軍司令部壕の説明板の内容について、女性軍属との記載がある。説明板には正確に女性軍属ではなく慰安婦と記載すべきではないか。

特に第32軍司令部壕に慰安婦がいたのかという問題についてお聞きしたい。第32軍司令部壕の展示施設を作り、平和教育等に広く活用する際には、事実関係を明らかにした正確な記述でないと、沖縄県民の納得は得られない。

○吉川氏

壕内に「慰安婦」がいたのかということは不明である。70名を超える女性が壕の中にいたという事実はわかっているがどこから動員されたか、壕内で何をさせられていたのかというのは不明な点が多い。「慰安婦」がいたか、いないかという単純な議論は乱暴だという意見もある。

第32軍司令部壕については、証言が少なくわからないことが多いため、今後丁寧に拾っていかねばいけない。

【展示施設の建設予定地について】

○出席者 2

第 5 坑口についてはアクセスが悪く、また住民の交通に支障が出やすい位置であるため、第 1 坑口の方に展示施設を建てるべきではないか。そのあたりの話し合いを県の方で対応いただきたい。

様々な問題はあるが、ぜひ公開に向け進めていただきたい。

○事務局（沖縄県）

今年度展示施設の基本計画を策定し、基本設計、実施設計を経て展示施設の整備に向け進んでいきたい。第 1 坑口については、今年度で発掘調査が完了し、デジタルジオラマや坑口を再現することにより公開できるよう取り組んでいきたい。

（6）まとめ、閉会挨拶

事務局より、まとめと閉会挨拶を行った。

4 議事内容（情報交換会）

（１）ワークショップ（その１・２）概要説明

事務局より、ワークショップ（その１・２）に関する概要説明を行った。

（２）過年度住民説明会の報告

事務局より、過年度に実施した住民説明会の報告を行った。

（３）アンケート結果（現時点速報）の報告

事務局より、オープンハウスにおけるシール投票結果の報告を行った。

（４）質疑応答（情報交換会）

【住民の犠牲者について】

○出席者 3

説明会での「壕の歴史と保存活用の意義」のスライドにあった住民犠牲の諸相のグラフについて、北部と南部の犠牲者数の整合はとれているのか。

○吉川氏

平和の礎の刻銘者データを基に作られたグラフなので、沖縄県の住民犠牲を正確に表したものではない。出身地ではなく犠牲になった場所での集計であるため、南部の人でも北部の収容所で犠牲になった方もいる。そこでの7月～9月に北部で死者が多いのは、北部は収容所が多かったため犠牲者数も多くなっているのではないかと。

【壕の公開範囲について】

○出席者 3

第2、第3坑道も公開可能なのか。

○事務局（沖縄県）

資料で「立入可能区間」としている第2、第3、第5坑口の一部について、全て一般公開するという意味ではなく、専門職員が点検のために立ち入りしているという意味である。第2、第3坑道は、地質的に一般公開は難しいが、デジタル技術等を活用しながら公開することも検討したい。

【壕内の補強で使う樹木について】

○出席者 4

壕内の落盤を防ぐための補強で使う木材について、壕の周辺には高木が全くないので船で琉球松を運んできたというのは本当なのか。

○吉川氏

やんばるから船で木材を運んだという記録が残っている。樹種は琉球松だと思う。首里城の木材を使ったということはなかったようだ。

【若い世代の参加について】

○出席者 5

沖縄戦の実相を伝える展示施設ができることは意義深いことで、県民みんなで応援したい。展示施設をどのように活用するかが大事という中で、高校生など次世代を担う若い世代の方々をワークショップに参加させてはどうか。探究活動や総合学習で沖縄の学生たちは沖縄戦をよく研究しているので、年代問わず学生に参加させたい。

○事務局（沖縄県）

ワークショップへの若い世代の方々の参画については今後の検討事項であるが、若い世代への平和発信継承が一番の目的でもあるので、近隣の学校などに参画を呼び掛けていきたい。

【戦跡ツアーについて】

○出席者 5

戦跡ツアーは大変意義深く、今後のメニュー化も考えられるが、ガイドを地域の方々が担うなど、地域住民が貴重な資源に関われるとよいのではないかな。

○事務局（沖縄県）

昨年度、ガイドテキストを作成しフィールドワーク講座を行うなどの取り組みを進めている。地域の方々にも講座を受講していただくなど積極的に参画いただけると大変ありがたい。

【若い世代の意見の反映について】

○出席者 6

若い世代の意見をどのように反映していくのか。

○沖縄県（事務局）

メールや問合せフォームなどで意見を収集していく。また、時期を見て県民向けにパブリックコメントの実施も検討している。進捗状況などについてはホームページ等で公開していきたい。第32軍司令部壕公式ホームページの内容も順次充実させていきたい。

【展示内容について】

○出席者 7

第32軍司令部壕や沖縄戦に関連した事実をきちんと取り上げていかなければいけない。

○沖縄県（事務局）

展示内容の検討にあたり、専門分野の有識者による検討を行うとともに、住民の目線で、史実に基づいて正確に次世代に伝えていく取り組みを進めている。

【地域住民への対応について】

○出席者 8

戦争の負の遺産を可視化して公開することに賛成する。

一方で、現在でさえ交通量が多い地域であり、住民としては交通に関する不安が多く出ている。ワークショップ以外に、地域の意見を聞き解決できるような機会はあるか。

○沖縄県（事務局）

今年度は3回のワークショップを予定しているが、展示施設の開設まで長期的なプロジェクトとなるため、段階ごとに検討状況をご説明し、その中で地域の皆様のご意見もいただき、すり合わせながら進めていきたい。

【展示施設の建設について】

○出席者 9

展示施設の整備について、地域からは反対意見も出ているが、整備は決定事項なのか。

○事務局（沖縄県）

県としては、建設候補地として沖縄県立芸術大学金城キャンパスの隣接地への建設を考えている。地域住民の了解が得られれば基本計画の策定を予定しているが、引き続き一つひとつの意見を詳しく聴取しながら検討を進めていきたい。

（5）まとめ、閉会挨拶

事務局より、まとめと閉会挨拶を行った。

令和8年7月12日

知事公室 平和・地域外交推進課